

平成31年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年10月15日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コード番号 7829 URL http://www.samantha.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)寺田 和正
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役 (氏名)菅原 隆司 (TEL) 03(6400)5524
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第2四半期の連結業績(平成30年3月1日～平成30年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	14,011	△11.6	530	—	501	—	298	—
30年2月期第2四半期	15,852	△10.3	△454	—	△519	—	△440	—

(注) 包括利益 31年2月期第2四半期 271百万円(—%) 30年2月期第2四半期 △448百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	8.46	—
30年2月期第2四半期	△12.49	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第2四半期	16,197	4,663	29.0
30年2月期	16,718	4,617	27.3

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 4,691百万円 30年2月期 4,558百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	5.00	—	5.00	10.00
31年2月期	—	0.00	—	—	—
31年2月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	27,908	△13.2	603	—	551	—	304	8.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年2月期2Q	35,296,000株	30年2月期	35,296,000株
② 期末自己株式数	—株	30年2月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	35,296,000株	30年2月期2Q	35,296,000株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな景気回復の動きが見られた一方、米国新政権の政策や欧州における政治リスク、アジア諸国の経済動向等、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、消費者の低価格志向が引き続き強く、個人消費は伸び悩んでおり、依然として厳しい経営環境となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、前期に行った選択と集中による事業再編に伴う店舗の整理による店舗数の減少(前年同期比で46店舗の減少)の影響もあり、140億11百万円(前年同期比11.6%減)となりました。

売上総利益率は、原価低減に努めた結果、前年同期比2.9ポイント増の70.1%となりましたが、減収により売上総利益額は98億24百万円(前年同期比7.8%減)となりました。

販売費及び一般管理費は、人件費・広告宣伝費、販売促進費及び業務委託費の見直しを行ったことにより、販売費及び一般管理費の対売上高比率は、前年同期比3.8ポイント減の66.3%となりました。この結果、営業利益は5億30百万円(前年同期は4億54百万円の損失)となりました。

営業外損益は、支払利息17百万円、為替差損15百万円など合計35百万円を営業外費用に計上し、経常利益は5億1百万円(前年同期は5億19百万円の損失)となりました。

特別損益は、固定資産除却損47百万円を計上し、税金等調整前四半期純利益は4億54百万円(前年同期は5億63百万円の損失)となりました。

また、法人税等合計1億94百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億98百万円(前年同期は4億40百万円の損失)となりました。

なお、当社グループは「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの主な取組みは以下のとおりであります。

<店舗展開について>

出店戦略として、選択と集中による事業再編に伴う低採算店舗の整理、ブランド変更や店舗統合を行ってまいりました。事業別の出退店数、主な店舗は以下のとおりであります。

バッグ事業においては、7店舗の出店(34店舗の退店)となりました。国内では「Samantha Thavasa(サマンサタバサ)」を神戸大丸に、「SamanthaThavasa Petit Choice(サマンサタバサプチチョイス)」を神戸マルイに出店いたしました。また、JR川崎駅西口に直結する大型商業施設「ラゾーナ川崎プラザ」に「Samantha Vega(サマンサベガ)& Samantha Thavasa Petit Choice」を出店いたしました。

ジュエリー事業においては、4店舗の退店となりました。

アパレル事業においては、3店舗の出店(4店舗の退店)となりました。「Swingle(スウィングル)」を名古屋パルコとジェイアール名古屋タカシマヤに、「And Couture(アンドクチュール)」を名古屋パルコに出店いたしました。

海外においては2店舗の出店(3店舗の退店)となりました。

その結果、サマンサタバサグループ合計で前年度末比で33店舗純減し、当第2四半期連結累計期間末の店舗数は356店舗となりました。

<プロモーション活動について>

プロモーション活動として、TVCMや、多数のファッション誌への掲載、各種イベント・キャンペーンなどを行ってまいりました。

「Samantha Thavasa(サマンサタバサ)」の2018年春夏のブランドイメージに合わせ、日米を代表するミレニアル世代をキャストしたドラマ仕立てのLOVEストーリーを2018年3月にTVCMにて放映いたしました。

また、連動企画としてTVCMの詳細を鑑賞できるwebドラマをサマンサタバサ公式YouTubeにて配信いたしました。

そして、ウェブバルマーク協会を通じてチャリティリレーを行い、YouTube再生回数を対象とした寄付を実施いた

しました。

また、2018年3月から「Samantha Vega(サマンサベガ)」においてEXILE/ GENERATIONS from EXILE TRIBEの白濱亜嵐さん、オースティン・マホーンさんをはじめとする男女8人が夏休みにロサンゼルスマリブビーチで出逢うストーリーをTVCMにて放映し、WebドラマとしてYouTubeにて配信いたしました。そして、サマンサタバサ表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて、共演した白濱亜嵐さんとオースティン・マホーンさんをゲストに迎え、Webドラマ新作発表会を開催し、両氏によるトークショーを実施いたしました。

また、近未来のAndroid雇用いち早く着手し、サマンサタバサ表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて、Androidの「Samantha U(サマンサユー)」を研修生として雇用いたしました。3月に開催したお披露目はTV・Webメディアで多数報道されました。

2018年5月には、幕張メッセで開催された「GirlsAward(ガールズアワード)」にバッグ事業から「Samantha Thavasa」が、アパレル事業から「REDYAZEL(レディアゼル)」が参加いたしました。会場には、小泉成器株式会社との協業により誕生し、世界的権威のデザイン賞「レッド・ドット・デザイン賞」プロダクト・デザイン2018を受賞した温風カールアイロン「nano airy(ナノエアリー)」を体感できる特設ブースを設置いたしました。そして、Youtubeチャンネル登録者数国内最多を誇り、若年層より支持されている人気クリエイター「はじめしゃちょー」がランウェイにてコラボレーション商品の発表を行いました。また、東京スカイツリータウン1Fソラマチひろば及びサマンサタバサ表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて「はじめしゃちょー」をゲストに迎え発売記念イベントを実施いたしました。

当社グループが主催する女子ゴルフトーナメントである「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント 2018」を、2018年7月に、茨城県・イーグルポイントゴルフクラブで開催し、大会3日間で約1万4千人の方にご来場いただきました。

<オムニチャネル戦略について>

今後も増加が見込まれる中国人を中心とした訪日客に対する快適なショッピングサポートを目指し、株式会社ジャックスと提携し、中国最大の決済サービス「アリペイ(支付宝)」を2018年3月にサマンサタバサ表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて導入し、その後、他の店舗への導入を行なっております。

そして、仮想通貨・ブロックチェーン企業である株式会社bitFlyer が提供するビットコインによる決済サービス「bitFlyerウォレット」も導入いたしました。

また、店舗社員のコーディネートを自社ECサイトやSNSへ投稿する「STAFF START(スタッフスタート)」を導入し、投稿した画像からのEC売上評価やSNS経由売上評価を行うことによる成果の可視化を開始いたしました。今後も店舗社員がEC上においても活躍できる仕組みづくりを行ないお客様サービスの向上に努めてまいります。

2018年6月に、サマンサタバサスイーツを取り扱うオンラインショップを出店いたしました。オリジナルスイーツをはじめ、様々なコラボレーションスイーツを全国のお客様にお楽しみいただける運営を目指してまいります。

2018年7月に、サマンサタバサ公式スマートフォンアプリ(以下「公式アプリ」)に新たにスタッフフォロー機能を実装いたしました。店舗社員とお客様との間で、相互にコミュニケーションを取ることができるようになりました。個別接客の機会を増やすことにより、再来店及び再購入を促進いたします。

そして、株式会社ブレイドが提供する顧客体験プラットフォーム「KARTE(カルテ)」のアプリ向けサービス「KARTE for App」を導入いたしました。ECサイトや「公式アプリ」を訪問されるお客様の購買行動の解析を深耕し、一人ひとりのお客様に合わせた感動創造接客(体験)を提供いたします。

今後は「公式アプリ」と「KARTE」を連動し、最適なコミュニケーションによる顧客満足度の最大化に努めてまいります。

<商品戦略について>

商品戦略として、各ブランドにおいて話題性のある多くの商品を販売いたしました。

バッグ事業においては、グローバルブランドへの更なる一歩として、アメリカ西海岸生まれのライフスタイル提案型セレクトショップ「Fred Segal(フレッドシーガル)」とコラボレーションを行い、オンラインショップにて先行予約販売し、その後に全国の店舗にて販売を開始いたしました。

2018年3月に5年目を迎えた「美少女戦士セーラームーン」× ISETANコラボレーションイベント「Let's Have a "Moonlight" & "Starlight" Party!」が伊勢丹新宿店本館、名古屋ISETAN HAUS及び大阪ルクアイーレにおいて開催

され「Samantha Vega(サマンサベガ)」、「Samantha Thavasa Petit Choice(サマンサタバサプチチョイス)」及び「Samantha Tiara(サマンサティアラ)」の3ブランドでコラボレーション商品を発売いたしました。

2018年5月に、「Samantha Vega」において、千葉商科大学サービス創造学部の学生の皆様が運営する、プロバスケットボールチーム「千葉ジェッツ」の活動を通じたプロジェクト「千葉ジェッツプロジェクト」とのコラボレーションを行ない、学生の皆様のアイデアを基に新しいスポーツ観戦の魅力を創造するデザイン及び機能性を追及したコラボレーション商品を発売いたしました。

2018年6月には、サマンサタバサ表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて、新田真剣佑さんが出演する映画「OVER DRIVE」の店内イベントを実施し、映画公開を記念したコラボレーションバッグ、アクセサリーを販売いたしました。

2018年8月には、「Samantha Thavasa(サマンサタバサ)」及び「Samantha Thavasa Petit Choice」において、プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズとのコラボレーションを行ない、「サマンサタバサ スイーツ&トラベル 新千歳空港店」限定で販売を開始いたしました。

ジュエリー事業においては、「Samantha Tiara」が、創業130周年を迎えたデビアスグループのダイヤモンドブランド「Forevermark(フォーエバーマーク)」とのブライダルコラボレーションを展開いたしました。婚約・結婚という大切な人生の節目に向けて、エンゲージリング及びマリッジリングを展開いたしました。

また、「Samantha Tiara」においてタレントの紗栄子さんと人気ファッション誌「sweet」とコラボレーションしたジュエリーコレクションを発売いたしました。

2018年8月に、「Samantha Thavasa」において、新田真剣佑さんとソフィア・リッチーさんをプロモーションモデルに起用したWEB、SNS、店頭放映用のムービー及びビジュアルを制作し、秋の新作として、オリジナリティーやディテールにこだわったボア素材を使用した商品を展開いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は161億97百万円であり、前連結会計年度末と比較して5億20百万円減少しております。主な要因は、差入保証金が1億39百万円、流動資産のその他に含まれる未取還付法人税等が1億14百万円及び未取還付消費税等が1億38百万円減少したことなどによるものであります。

(負債)

総負債は115億34百万円であり、前連結会計年度末と比較して5億66百万円減少しております。主な要因は、短期借入金が5億4百万円増加した一方、1年内返済予定の長期借入金が2億2百万円及び長期借入金が9億19百万円減少したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産は46億63百万円であり、前連結会計年度末と比較して45百万円増加しております。主な増加要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ、8百万円減少し、25億55百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、7億74百万円（前年同四半期は7億38百万円の資金の減少）となりました。主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益4億54百万円、減価償却費2億47百万円、法人税等の還付額1億54百万円などによるものであり、主な減少要因は、たな卸資産の増加額3億6百万円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、89百万円（前年同四半期は3億41百万円の資金の減少）となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出1億24百万円、敷金及び保証金の差入による支出30百万円などによるものであり、主な増加要因は、敷金及び保証金の回収による収入80百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、6億76百万円（前年同四半期は11億30百万円の資金の減少）となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済による支出11億22百万円、配当金の支払額1億76百万円などによるものであり、主な増加要因は、短期借入金の純増加額5億4百万円などによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の通期の連結業績予想につきましては、平成30年4月13日に公表いたしました業績予想を修正しております。詳細は、本日（平成30年10月15日）公表いたしました「平成31年2月期 第2四半期及び通期連結業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,564,037	2,555,332
受取手形及び売掛金	1,650,430	1,618,243
商品及び製品	5,280,178	5,525,099
原材料及び貯蔵品	260,126	223,774
その他	1,551,534	1,232,961
貸倒引当金	△628	△628
流動資産合計	11,305,679	11,154,782
固定資産		
有形固定資産	1,309,469	1,222,380
無形固定資産		
その他	421,742	381,611
無形固定資産合計	421,742	381,611
投資その他の資産		
差入保証金	2,594,790	2,455,543
その他	1,087,150	983,622
投資その他の資産合計	3,681,940	3,439,165
固定資産合計	5,413,153	5,043,157
資産合計	16,718,832	16,197,940
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,299,385	1,356,631
短期借入金	204,970	709,580
1年内返済予定の長期借入金	3,519,945	3,317,039
未払法人税等	15,539	108,550
賞与引当金	227,523	233,970
その他	1,178,743	1,103,841
流動負債合計	6,446,107	6,829,613
固定負債		
長期借入金	5,472,530	4,553,276
その他	182,324	151,873
固定負債合計	5,654,854	4,705,149
負債合計	12,100,961	11,534,762

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	226,384	348,647
株主資本合計	4,611,584	4,733,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,074	19,718
為替換算調整勘定	△71,254	△61,861
その他の包括利益累計額合計	△53,179	△42,142
非支配株主持分	59,465	△28,526
純資産合計	4,617,871	4,663,177
負債純資産合計	16,718,832	16,197,940

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	15,852,699	14,011,610
売上原価	5,195,971	4,186,761
売上総利益	10,656,728	9,824,849
販売費及び一般管理費	11,110,985	9,294,565
営業利益又は営業損失(△)	△454,257	530,283
営業外収益		
受取利息	616	614
受取配当金	443	480
その他	2,905	5,160
営業外収益合計	3,965	6,254
営業外費用		
支払利息	15,704	17,359
為替差損	44,976	15,725
その他	8,813	2,341
営業外費用合計	69,494	35,426
経常利益又は経常損失(△)	△519,786	501,112
特別損失		
固定資産除却損	43,400	47,052
特別損失合計	43,400	47,052
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△563,187	454,059
法人税、住民税及び事業税	130,475	50,784
法人税等調整額	△226,953	143,484
法人税等合計	△96,477	194,269
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△466,709	259,790
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△26,010	△38,952
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△440,698	298,743

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△466,709	259,790
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,669	1,643
為替換算調整勘定	27,399	9,731
その他の包括利益合計	17,729	11,375
四半期包括利益	△448,979	271,165
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△422,668	309,779
非支配株主に係る四半期包括利益	△26,310	△38,613

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△563,187	454,059
減価償却費	403,080	247,795
賞与引当金の増減額(△は減少)	△64,743	9,372
受取利息及び受取配当金	△1,059	△1,094
為替差損益(△は益)	6,827	1,571
支払利息	15,704	17,359
固定資産除却損	43,400	47,052
売上債権の増減額(△は増加)	118,898	△3,886
たな卸資産の増減額(△は増加)	△590,692	△306,643
仕入債務の増減額(△は減少)	△354,712	137,969
その他	564,056	72,345
小計	△422,428	675,900
利息及び配当金の受取額	659	594
利息の支払額	△15,777	△17,982
法人税等の還付額	25,946	154,801
法人税等の支払額	△326,512	△38,809
営業活動によるキャッシュ・フロー	△738,112	774,503
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△541,951	△124,237
無形固定資産の取得による支出	△43,859	△28,341
投資有価証券の取得による支出	△2,999	△2,935
敷金及び保証金の差入による支出	△235,247	△30,845
敷金及び保証金の回収による収入	489,008	80,848
その他	△6,196	16,122
投資活動によるキャッシュ・フロー	△341,245	△89,387
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	8,865	504,004
長期借入れによる収入	—	118,000
長期借入金の返済による支出	△963,762	△1,122,160
配当金の支払額	△175,751	△176,228
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,130,648	△676,384
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13,741	△17,437
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,223,748	△8,705
現金及び現金同等物の期首残高	4,391,782	2,564,037
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,168,033	2,555,332

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。